

7 その他全般的事項

<経営学部 心理経営学科>

(1) 設置計画変更事項等

| 設置時の計画 | 変更内容・状況、今後の見通しなど |
|--|--|
| ① 修了要件単位数 124単位 必修科目24単位、選択科目100単位 ② 施設・設備 a 講義室47室 | ① 必修科目「基礎ゼミナール」4単位を 「基礎ゼミナールA」2単位、「基礎ゼミナールB」 2単位に分け、学習目的を明確にする。 ② 学生の修学環境を改善するため、心理関連の講義室を 3教室増やし受講希望者増に対応する。 平成25年度で報告漏れだったため、平成26年度で報告。 平成25年度以降変更ありません。 |

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

| |
|---|
| ① 実施体制 a 委員会の設置状況 経営学部では、教員の資質の向上、授業改善について教務委員会で所掌しており、学部独自の資質向上を図っている。 また、全学的な「ラーニングメソッド研究会」についても学部の教務委員会が主体となり、実施している。 <div style="text-align: right;">※学部教務委員会規程</div> b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 毎月1回開催しており、ほぼ全員の参加がある。 c 委員会の審議事項等 学事暦、授業科目の編成、教育施設、授業運営 全学的な内容としては、「ラーニングメソッド研究会」等のFD関係についても審議している。 |
| ② 実施状況 a 実施内容 (ア)「全学研究発表会」 教員個々の専門の総合化や専門を超えた研究方法や研究基盤の確立を目指し、総合的な活性化を図る目的で、平成25年11月27日に開催した。 (イ)「ラーニングメソッド研究会」 「ティーチングメソッド研究会」は、全学的に毎年実施している研究会で、教員が授業の改善方法を発表する内容となっている。平成23年度より「ラーニングメソッド研究会」と改称し、平成25年度は平成26年1月22日(水)に実施した。 (ウ) 教員相互の授業参観 毎年、後期に専任教員の担当授業で実施。 |
| b 実施方法 (ア)「全学研究発表会」 ・ 期日等 平成25年11月27日(水) 14時40分～17時40分 ・ 内容 基調講演「モノづくりと事業経営～新規事業の立ち上げを経験して～」 外部講師1名 発表テーマ 両学部教員4名 |

「学校教育環境における健康相談活動支援システム開発に関する基礎的研究」

「調査報告課題に対するの負荷のかけ方と問題点～作成指示書を用いて、レポート作成を支援する場合～」

「『個客』に対応したビジネスの研究から」

「建国初期アメリカ財政史の研究～モリス財政政策からハミルトン体制へ～」

(イ) 「ラーニングメソッド研究会」

・ 期日等 平成26年1月22日（水） 14時40分～17時20分

・ 内容 ベストティーチャー賞授賞式（両学部1名ずつ表彰）

個別発表（両学部教員計7名、関連する学生2名の発表）

「心理学応用コース（ビジネス心理学・スポーツ心理学）の試み～学生からみた実践知とは～」

「教職課程におけるアクティブラーニングへの取組～「書く」＝「伝える」を中心にして～」

「ソーシャルメディアマーケター育成支援のための学習環境デザイン」

「情報学部におけるPBLの取組み～情報デザインプロジェクト演習を通しての実践的学習～」

(ウ) 教員相互の授業参観

参加可能授業一覧表を配付して、相互に授業を参観する。参観後レポートを作成して、担当教員に提出して授業改善に役立てる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

「全学研究発表会」「ラーニングメソッド研究会」については、全教員参加の全学的行事と位置付けられている。特別な出張等がある場合を除いて全員参加となっている。

授業参観は、後期開講授業について実施しており、教員全員に参観を義務付けている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

「全学研究発表会」については、他分野の内容に触れ、個々の専門分野の研究に活用することを目的としている。研究の質の向上が教育活動の活性化にも効果が期待できる。

「ラーニングメソッド研究会」は、文字通り授業改善を図るための発表会であり、効果的な授業方法について、他の教員の方法を知る絶好の機会となっており、授業運営の向上に役立っている。また、関わった学生が意見を述べるスケジュールも盛り込まれており、受益者である学生のニーズも把握できる内容となっている。

授業参観は、教員同士で他者評価を行うことで、直接的な向上策となっている。今後、期待できる方策と考えている。

このような取組みを組み合わせることで、相乗的な効果を得られるものと考えている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成12年度から毎年1回、全学で実施している。実施時期は、以前は前期または後期に固定していたが、平成19年度からは前期、後期交互に実施するように改め、現在に至っている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果に基づく集計資料（5種類、紙媒体）を教員個々に配付するとともに、学部長には所属学部教員分、学長には全教員分の集計資料を配付するようにしている。また学生に対しては、集計結果から導き出される「学生満足度」の数値を年度末に公表し、次年度授業選択の参考資料として活用できるようにしている。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学では、学科およびコースの選択は2年次生より行うことになっており、学科設置の初年度に当たる平成24年5月1日現在では、学生の把握はできていなかったが、2年目となる平成25年5月1日現在では、55名、平成26年は2年次生72名、3年次生49名、計121名となっている。

新入学の段階では、オリエンテーションにおいて、学科の特色を示し今後の履修方法について、入学年度別にガイドブックを作成し、指導している。

ガイドブックでは、学科に組み込まれた「ビジネス心理コース」「スポーツ心理コース」の概要や主な科目と内容、履修するうえでの教員からのアドバイスを示し、学科の趣旨を学生にわかりやすく説明している。

その説明に加えコースの科目体系図を示し、学部や学科の教育体系である基礎教育科目、学科共通科目、学科専門科目の中での心理経営学科のコース科目の関連や履修の仕方を理解させるとともに、系統だった履修ができるように指導しており、入学初年度より、他の教育内容と比較しながら履修していけるように努めている。

このような取組みの中で、学生に対して学科の趣旨や目的に沿った教育が受けられると考えている。

この指導方法は、全教員が共有しており、クラス運営や各授業の中で生かされており、様々な機会を通じて学科の教育目標の理解を深めることができると自負している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成25年度後半から作成を始めた報告書がまとめ次第、公表を検討する。

（平成26年度中を予定）

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で準備を進めている。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成 24 年 8 月 下旬)

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD 活動含む)

① 実施体制

a 委員会の設置状況

経営学部では、教員の資質の向上、授業改善について教務委員会で所掌しており、学部独自の資質向上を図っている。

また、全学的な「ラーニングメソッド研究会」についても学部の教務委員会が主体となり、実施している。

※学部教務委員会規程

b 委員会の開催状況

毎月1回開催しており、ほぼ全員の参加がある。

c 委員会の審議事項

学事歴、授業科目の編成、教育施設、授業運営

全学的な内容としては、「ラーニングメソッド研究会」等の FD 関係についても審議している。

② 実施状況

a 実施内容

(ア) 「全学研究発表会」

教員個々の専門の総合化や専門を越えた研究方法や研究基盤の確立を目指し、総合的な活性化を図る目的で、平成 25 年 11 月 27 日に開催した。

(イ) 「ラーニングメソッド研究会」

「ティーチングメソッド研究会」は、全学的に毎年実施している研究会で、教員が授業の改善方法を発表する内容となっている。平成 23 年度より、「ラーニングメソッド研究会」と改名し、平成 25 年度は平成 26 年 1 月 22 日（水）に実施した。

(ウ) 教員相互の授業参観

毎年、後期に専任教員の担当授業で実施。

b 実施方法

(ア) 「全学研究発表会」

・ 期日等 平成 25 年 11 月 27 日（水） 14 時 40 分～17 時 40 分

・ 内容

基調講演 「モノづくりと事業経営～新規事業の立ち上げを経験して～」

外部講師 1 名

発表テーマ 両学部教員 4 名

「学校教育環境における健康相談活動支援システム開発に関する基礎的研究」

「調査報告課題に対しての負荷のかけ方と問題点～作成指示書を用いて、

レポート作成を支援する場合～」

『個客』に対応したビジネスの研究から」

「建国初期アメリカ財政史の研究～モリス財政政策からハミルトン体制へ～」

(イ) 「ラーニングメソッド研究会」

・ 期日等 平成 26 年 1 月 22 日（水） 14 時 40 分～17 時 20 分

・ 内容

ベストティーチャー賞授賞式(両学部 1 名ずつ表彰)

個別発表 両学部教員計 7 名（関連する学生 2 名の発表）

「心理学応用コース(ビジネス心理学・スポーツ心理学)の試み

～学生からみた実践知とは～」

「教職課程におけるアクティブラーニングへの取組

～「書く」＝「伝える」を中心にして～」

「ソーシャルメディアマーケター育成支援のための学習環境デザイン」

「情報学部における PBL の取組み

～情報デザインプロジェクト演習を通しての実践的学習～」

(ウ) 教員相互の授業参観

参加可能授業を配布して、相互に授業を参観する。参観後レポートを作成して、担当教員に提出して、授業改善に役立てる。

c 開催状況

「全学研究発表会」「ラーニングメソッド研究会」については、全教員参加の全学的行事と位置付けられている。特別な出張等がある場合を除いて全員参加となっている。

授業参観は、後期開講授業について実施しており、教員全員に参観を義務付けている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取り組み状況

「全学研究発表会」については、他分野の内容に触れ、個々の専門分野の研究に活用することを目的としている。研究の質の向上が教育活動の活性化にも効果が期待できる。

「ラーニングメソッド研究会」は、文字通り授業改善を図るための発表会であり、効果的な授業方法について、他の教員の方法を知る絶好の機会となっており、授業運営の向上に役立っている。また、関わった学生が意見を述べるスケジュールも盛り込まれており、受益者である学生のニーズも把握できる内容となっている。

授業参観は、教員同士で他者評価を行うことで、直接的な向上策となっている。今後、期待できる方策と考えている。

このような取り組みを組み合わせることで、相乗的な効果を得られるものと考えている。

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学では、学科およびコースの選択は2年次生より行うことになっており、学科設置の初年度に当たる平成24年5月1日現在では、学生の把握はできていなかったが、2年目となる平成25年5月1日現在では、55名、平成26年は、2年次生72名、3年次生49名 計121名となっている。

新入学の段階では、オリエンテーションにおいて、学科の特色を示し今後の履修方法について、入学年度別にガイドブックを作成し、指導している。

ガイドブックでは、学科に組み込まれた「ビジネス心理コース」「スポーツ心理コース」の概要や主な科目と内容、履修するうえでの教員からのアドバイスを示し、学科の趣旨を学生にわかりやすく説明している。その説明に加え、コースの科目体系図を示し、学部や学科の教育体系である基礎教育科目、学科共通科目、学科専門科目の中での心理経営学科のコース科目の関連や履修の仕方を理解させるとともに、系統だった履修ができるように指導しており、入学初年度より、他の教育内容と比較しながら履修していけるように努めている。

このような取り組みの中で、学生に対して学科の趣旨や目的に沿った教育が受けることができると考えている。

この指導方法は、全教員が共有しており、クラス運営や各授業の中で生かされており、様々な機会を通じて学科の教育目標の理解を深めることができると自負している。